

# 子どもと地域の環(わ)を育む ～仕掛ける～



(高校生による書道パフォーマンス)



大人は若者を応援します。若者のためならば地域も動きます。  
地域は若者たちというエネルギーで繋がっていきまわります。

今回は、大瀬古町子供と地域の環を育む会 会長の井上誠二さんの活動をご紹介します。

## 四日市公害が残したもの

四日市は公害のまち、海は  
どんなに汚れているのだろうか。

井上さんは仕事柄、何度も転勤を経験しています。タイへの転勤、滋賀への転勤、そして四日市に赴任することになった時、四日市は一番行きたくない町だったと言います。四日市は公害のイメージが強く、井上さんの子どもたちも拒否反応を示していました。

ところが四日市に引越してきてから、どんなに海が汚れているのかと思いきや、出かけて行った海辺で釣り人と話をしていたら、「アカウミガメが来るんですよ」と。

この言葉にびっくりし、吉崎海岸の清掃に参加するようになりました。まず、娘がこの活動に夢中になりました。「四日市、悪くないじゃん」と。

## よそ者の視点

転勤族の井上さんは、

「地域でむずかしいのは、この地にずっと住んでいこうと思うと、トラブルがあっても、こんなところで嫌われたくないと、防衛本能が働くこと。私にとっては全然知らないところなので、もめても構いませんでした。提案したことを一時は反対されても、周りの賛成の声に押されて、成功したこともあります。よそ者の視点と地域の人たちが少しずつ歩みよることで、他の地区の良いところを真似したり、みんなで一緒にやってく雰囲気をつくっていくのだと思います。よそ者の強さで、例えばは良くないですが、犬猿の仲といわれる犬とも猿とも仲良くできるのです。」

そして、その活動を引っ張っていくリーダーを増やしていきたくて、リーダーが育っていないのが現状です。」と、話してくれました。

そんな井上さんの高校生を巻き込んだ活動をご紹介します。

### 【お話を伺った人】



「大瀬古町子供と地域の環を育む会」会長

井上 誠二 さん

ゴム加工会社に勤めながら、休日は、地域に根付いた子ども達の体験イベントなど企画・運営

日永地区社会福祉協議会 理事などを兼務  
2015年 第4回みえ環境大賞受賞

